

進捗状況の概要（1 ページ以内）

本事業の英語名称 Intensive Issue Based Education and Training Program から略称 II-BEAT（愛称ツービート）と名付けており、以下 II-BEAT 事業と記していく。

1. 事業計画実施体制

①II-BEAT 事業実施 WG の活動強化

プログラムを試行実施する国際教養学部では、令和4年度に構築した学務委員会と II-BEAT 事業実施 WG との連携をさらに強化し、モジュール科目群の担当教員からのフィードバックを受けての検討、学修支援体制の強化(自己設計科目に対する学生へのコンセプト周知と指導、特別プログラム運営のための学部担当教員との連携)を進めた。加えて学修成果の可視化をメジャープロジェクトの達成度で学生が体感できるように「メジャープロジェクト・ループリック(MP ループリック)」を構築し、試行を開始した。

②全学的な学修成果可視化システム構築の準備

全学的な教育体制をつかさどる高等教育センターによる全学的な教学 IR 運営及び学修成果の可視化を行う事業が進められている。全学での運用を開始した「学びのダッシュボード」と MP ループリックとの連携が可能か検討を行った。また GPS-Academic による学生の成長過程を測る評価について引き続き行った。

2. 達成目標と事業内容

①「三つの方針」を通じた学修目標の可視化

本学の3つの方針を点検し、国際教養学部の3つのメジャー（グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学）の AP、CP、DP に合わせた、カリキュラム編成を引き続き行った。それに基づき「6つの涵養する能力」による学修成果の可視化をする方向性を定めた。

②授業科目・教育課程の編成・実施

令和4年度に引き続き、3年次第1、4タームへの集約的ターム編成を行った。併せて第2、3及び第5、6タームに集約したセルフデザインギャップターム(SDGT)で各教員が実験、野外実習などを行う特別プログラムを編成し、また学生自身がカスタマイズする自己設計科目の運営を行った。

③学修成果・教育成果の把握・可視化

3、4年次生に対して、II-BEATによる集約化したカリキュラムで開講した授業科目に対する学生側からのフィードバックを得るアンケートを実施した。結果、集中的な学びを受講できるという肯定的評価があるものの、3年次第4タームの集中的な受講に負担を訴える声もあった。集約タームのメリット、デメリットが検討課題となった。

④学修成果や教育成果、教育の質に関する情報の公表

II-BEAT 事業を周知する Web サイトにより課題先行型カリキュラムの紹介を更新した。また、本事業に関する NEWS LETTER vol.3 を発行し、教育成果の公表を行った。

3. 年度別の計画（当該年度のみ）

モジュール科目群を1つ増やして合計4つとして、引き続き授業科目の集約化を行った。併せて SDGT の運用を進め、特別プログラム、自己設計科目の運営を行った。

4. 留意事項への対応状況

特に学修成果の把握、可視化のあるべき姿について、1①②に記したような取り組みを重点的に進めた。

5. 全学的波及に向けた計画及び工程への対応状況

実質的ターム制の効用と問題点、ギャップタームのあり方について、全学 FD、公開シンポジウム「ターム制の効用と問題点：メリハリをつけた学期制の可能性」を開催し、検討課題を学内外に周知した。